

石巻専修大学 復興共生プロジェクト



石巻専修大学

復興共生プロジェクト

石巻専修大学では被災地域の防災と復興に関する事業を行い、これを通じて石巻専修大学の研究と教育の高度化を図る「復興共生プロジェクト」を学長、共創研究センター長、大学開放センター長が中心となって機動的に展開しています。

大学施設の提供、防災や復興に関連する講演会やシンポジウムの開催、被災者支援、産業支援、防災・復興関連研究など幅広い事業内容となっています。

石巻専修大学 学長

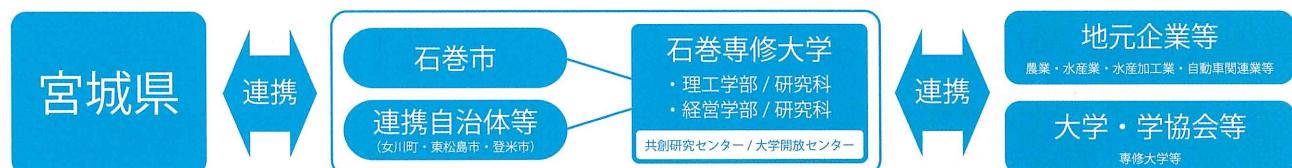
「社会に対する報恩奉仕」という建学の精神のもとに被災地域の防災と復興に関わる事業を行い、こうした活動を通じて大学の教育と研究の新しい形を開発します。

石巻専修大学 共創研究センター長

自治体との実効的協力体制の強化や他大学・学協会との継続的協力体制の構築を図りつつ地域社会・企業の復興支援に資する大学の研究・開発力の向上を支えます。

石巻専修大学 大学開放センター長

学外の方々に対して大学への入口であり、大学からの情報の出口として、震災後の地域の多様な要請に対応した活動を行います。



2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地の只中にあり、学生・教職員の三分の一が被災した大学として、石巻専修大学は被災地域の防災と復興に関わる事業を展開するとともに、これらの事業を通じて復興を担う人材の育成を目指しています。

こうした事業には学生も多数参加しており、調査、研究、支援などの活動を通して多面的な能力の開発が進んでいます。また、こうした活動を指導する教員から専門知識のみならず、考え方や物事の進め方、外部の方とのつき合いなど、さまざまな教育を受けています。こうした教育は本学の教育目標である「実践的な教育」そのものであります。一方で、復興共生プロジェクトに参加する教員はそれぞれの専門領域を広げつつあります。教員のこうした知的冒険は今後の本学の教育と研究の高度化に結びつくと期待されています。

『石巻専修大学における復興共生プロジェクト推進のためのセンター的機能整備事業』

I 石巻圏域の産業復興プロジェクト「くらし・しごと」

① 津波による自動車災害を踏まえた安全な自動車並びに自動車利用法の開発

東日本大震災の津波による自動車災害の調査を行い、これを踏まえた安全自動車並びに自動車利用法の開発を行い、これらを基に石巻市を中心とした自動車関連の産学官連携の取り組みにつながる事業を実施します。

② 石巻専修大学経営学部地域活性化研究会

この地域の震災からの復旧・復興を進めるために、本学経営学部の地域活性化研究会（構成員は経営学部）による実態調査、関係機関等への提言、問題解決のための事業等を実施します。

③ 被災地域の水産業及び水産加工業支援（試作・試験）

被災地域の水産業及び水産加工業の支援のために水産加工食品の試作・試験支援事業を実施します。

II 石巻専修大学の防災能力の強化「くらし・まち・いのち」

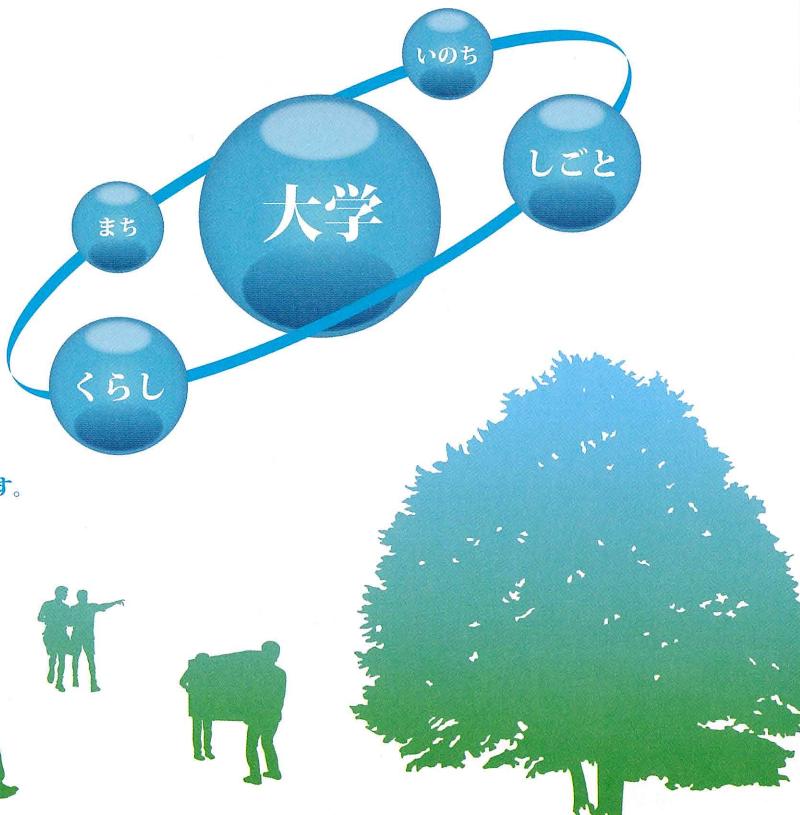
数十戸規模の集落の地域住民を継続的に守るために基本設備として、自立可搬式浄水ミニプラントの開発を行います。大震災直後に避難所や救護所、ボランティアセンターを本学内に設置し、石巻圏の防災拠点として本学は機能しました。今後の災害に対して防災拠点能力の強化の可能性を図ります。

III 復興に関連した情報の発信「くらし・まち・しごと・いのち」

地域の復旧・復興への思いを風化させないためにも、被災地石巻から後世に残さなければならない大震災の記録・情報をアーカイブとして集約すると共に、報告書の刊行やシンポジウム等によって社会に発信します。

被災地の最前線で活動する
石巻専修大学が
地域復興のセンターとなり、
地域とともに復興を
目指します。

『石巻専修大学における復興共生プロジェクト推進のためのセンター的機能整備事業』は、文部科学省の『大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業』に採択された事業です。



被災直後の活動

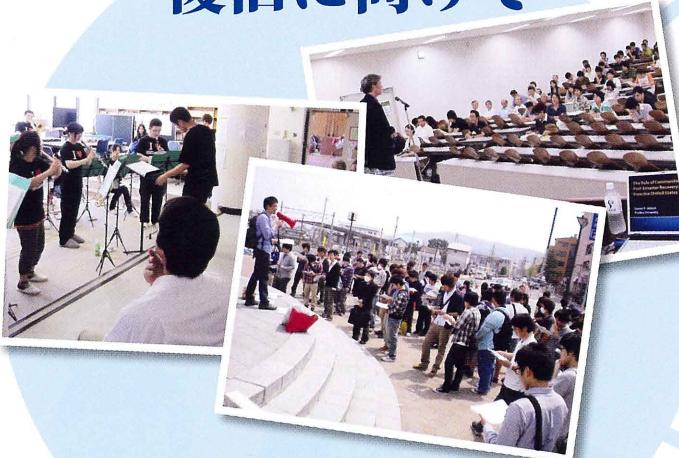


大学は、被災者の救援活動に努めるとともに被災地への緊急的な支援のために、全国から集まるボランティア団体を受け入れ、復旧・復興の拠点となりました。

大学の再開



復旧に向けて



安定した生活を取り戻しつつある中、大学では講義や研究等を再開するための準備を進めました。被災地の復旧のために学生たちは被災直後から自主的にボランティア活動を行いました。

2011年5月には
大学で全ての
教育・研究活動が
再開し、これまで
通りの活動に加え、
地域復興の活動を
行っています。